

お知らせ
info

適正な学校規模を目指すための方策とは…

学校の規模及び配置等に関する基本的な考え方について

問 教育課 学校教育係 内線 4115

4月28日、鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会による「学校の規模及び配置等に関する基本的な考え方について」の答申が出されました。その内容については次のとおりです。

学校の適正配置については、適正な学校規模を目指すものであり、その方策として、通学区の変更、学校の統廃合がある。各学校の通学区は、それぞれの歴史とともに地域社会と深い結びつきをもち、学校そのものは地域づくりや防災の拠点としての機能を併せ持っている。

このような役割を考慮し、学校の適正配置は、地域関係者、保護者の意見を尊重しながら、学校・地域・行政が連携し、一体となって進めていく必要がある。

令和2年度から保育所の統廃合が行政主導で進められたこともあり、併せて学校の統廃合についても行政主導で行われるのではないかと懸念を抱かれた町民も多いのではないと思われるが、町長は学校の統廃合に関して、小学校6校及び中学校2校の必要性を認識していることを明言しており、教育長においても同様の考えである。そのため、行政主導の学校の統廃合について計画される可能性は現時点では低い。

今回、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で会議を開くことができず、検討委員から各所属団体で協議した上での意見を書面で提出いただいた。

平成27年度と比較して、学校の統廃合に対して肯定的な意見は増えているが、慎重に検討すべきとの意見も多く、また意思統一ができず、異なる複数意見が提出された団体もあった。統廃合後の施設利用計画について問う声もあったが、現時点で具体的な統廃合計画案が無い場合、これは今後の検討課題とすることとしたい。

全ての学校がコミュニティ・スクールとして、学校運営協議会を中心に「地域とともにある学校づくり」が推進されていること、学校が地域コミュニティの場であり、地域行事の開催場所となっていること、地域の避難場所に指定されていること、施設の老朽化が進んでいること等を総合的に考慮し、地域や関係機関とも協議を行った上で決定することが必要である。

新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くかは不明であるが、現在の鬼北町の小中学校は施設内を広く利用可能であり、また少人数のため対策も取り易く、クラスターが起りづらいため望ましい状況である。

ただ、少子化の傾向は依然として顕著であり、今後、鬼北町でも学校の統廃合は避けられないということは事実である。そのため、教育委員会はまず一番の当事者となる保護者に対して、今後の児童生徒数の推移を基に、小規模校のメリット・デメリット等について説明を行っていく必要があると考える。

以上の結果から、鬼北町における学校の適正規模・適正配置については、「令和7年度に再検討する」との結論に達した。

令和7年度には、令和5年度に統合され新たな運用が展開される保育所の成果や課題が整理できると思われる。また、令和6年度からは新しい広見中学校校舎及び体育館の全面利用が始まり、今後の鬼北町の義務教育に対する町民の関心も高まることが予想される。

ただし、「児童生徒数の減少により、今後おおむね10年間にわたって、いかなる形にせよ学校の統廃合の具体的な検討は避けることはできない」ということを事実として認識する必要がある。

教育委員会においては、統廃合を始めとする小中学校の再編や義務教育の充実に対する関心を高め、意識の醸成を図っていくため、児童生徒の保護者に対して、今後の児童生徒数の推移を説明の上、アンケート調査等を実施されたい。

また、無駄を避けるため、具体的な統廃合の計画が策定されるまでの間は学校の大規模改修は凍結し、必要最小限の修繕に止めることが望ましい。

最後に、町民一人ひとりが教育を取り巻く様々な諸問題を真剣に考え、鬼北町がより発展することを切に期待する。

お知らせ
info

婚活をしてみませんか？

鬼北町結婚相談員の紹介

問 企画振興課 地域活力創出係 内線 2441

鬼北町結婚相談員が、4月に新しく委嘱されました。相談員の任期は2年間で、結婚相談や出会う機会の支援などを行います。お気軽にご相談ください。

※えひめ結婚支援センターが提供する「愛結び」（会員制お見合いシステム）についての詳細は、ホームページをご覧ください。

<https://www.mcs-ehime.jp/aimusubi/>



芝 薫さん = 小倉 =



山内 翔平さん = 下鍵山 =